

令和6年度 南区地域福祉アクションプラン地区別計画進捗確認一覧

南区地域福祉アクションプラン 令和6年度地区別計画進捗確認一覧

地区名	令和6年度推進計画				評価							
	スローガン	推進目標	R5年度取組んでの課題と次年度引継ぎ事項	令和6年度の目標と取組み	取組んだ活動事業	取組んでの課題と次年度引継ぎ事項	住民参加	協議の場づくり	関係機関団体との連携協働	つながりひろがり	住民の理解促進	周知PR
新飯田	笑顔いっぱい「おたがいさまらたて」と心が通い合う新飯田	支え合いのしくみづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●取組んでの課題 <ul style="list-style-type: none"> ・「移動式茶の間」今後の継続的開催には「会場の整備」「会場までの参加者の送迎」の課題があり、継続検討するほか、地域でサポートしてくれる人の確保、育成も課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・「新飯田巡回茶の間」で参加を促すポイント制を取り入れる ・敬老祝いの訪問事業や地区社協の訪問活動を継続、顔の見える関係づくりを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミ協主催の移動式茶の間をきっかけに、1つの自治会で茶の間がスタート ・コミ協の支援で参加ポイント制を導入するなど工夫した活動となった。 ・地区行事の送迎に対し、にいだの里から協力をもらって参加促進が出来た 	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・移動式茶の間の空白地域での開催に向けた、候補地区の検討が必要。 ・地域の茶の間への参加者で、送迎が必要な人が増えてきている。 【次年度への引き継ぎ】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の茶の間の空白地区での移動式茶の間の開催 ・地域の茶の間への送迎の課題 ・防災訓練の他地区との開催の検討 	A	A	A	A	A	A
		地域活動への住民の参加推進	<ul style="list-style-type: none"> ●次年度引継ぎ事項 <ul style="list-style-type: none"> ・防災・減災活動 災害時の避難で支援を必要とする要支援者の把握や日頃から自治会といった身近な範囲で意識し合える環境づくりが課題となる ・各自治会にアクションプランや支え合いの必要性を説明する機会を設け連携する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアグループふおはあとの活動「夢みる遊び場」での子どもの居場所づくりを通し、食材提供や寄付などの多様な参加の形をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアグループふおはあとの活動「夢みる遊び場」での子どもの居場所づくりを通し、食材提供や寄付などの多様な参加の形をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学6年生が活躍したイベントや白根高校のボランティアや保護者、児童館とも連携ができた。 						
		防災・減災活動への取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・7/7防災訓練では車いすやシルバーカーの利用者の参加もあり避難に不自由な方の支援を考えた ・要支援者名簿の対象者を自治会や班の単位で共有の場を作る検討をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練では、東日本大震災の体験や中越地震の支援の話を地域住民や小学校校長から聞く機会をつくった。また、AEDやけがの応急対応など学べる機会となった。 							
		地域のPR		<ul style="list-style-type: none"> ・自治会長の集まる機会などにアクションプランや支え合いの説明を検討する ・LINEを活用した行事の発信や、行政のXの活用依頼なども検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSを活用した情報発信をおこなった ・チラシの配付を地区外におこなった 							
茨曾根	笑顔で支え合う桃の花咲く茨曾根	支え合いのしくみづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●取組んでの課題 <ul style="list-style-type: none"> ・活動事業の次世代担い手不足 ・災害時安否確認訓練は実施できたが内容を住民に理解してもらうために継続が必要 ●次年度引継ぎ事項 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の新たな活動（グラウンドゴルフ等）を地域で応援できると良い ・次世代の担い手育成を今年度の様な活動を継続することで取り組み続けていく ・地域みんなが考えるような防災啓発を地震で意識が高いうちに実施していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の茶の間の参加者増 ・下茨曾根自治会見守りとゴミ出し支援継続 ・外出支援の方法を検討する ・健康体操スポーツ推進員との協働 ・グラウンドゴルフやポッチャ、リバイバルダンスの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老会への送迎や演目工夫により参加促進を図った ・地域の茶の間の継続、介護予防体操の継続 ・小6生のお茶の間訪問や学校での茶の間開催で高齢者と小学生の交流が生まれた ・グラウンドゴルフやポッチャなど、高齢者が楽しみ介護予防になる取組みに挑戦した 	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・事業が多く、役員の負担も大きいことから、自治会での自主防災の講習は開催できなかった ・発災直後の初動と避難所の運営の役割分担を図ることが課題になっている ・地域の役員に女性の参加が少ないことが課題 ・地域の茶の間の高齢化で、運営の支援が必要になっている。応援体制を作れると良い ・グラウンドゴルフ定着には定期開催や声かけの工夫が必要 【次年度への引き継ぎ】 <ul style="list-style-type: none"> ①地域の防災意識を保つため、年間計画で防災に触れる機会をつくることや、自治会内の防災役員の定着、女性の防災士誕生を応援するなどに取り組む ②「グラウンドゴルフ」を通じ、地域で定期的に集まり介護予防になる高齢者の新たな活動を促進する ③茨曾根フェスティバル等の楽しい活動の中から次世代の育成を継続していく 	A	A	A	A	A	A
		子ども達を地域で育てる取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに多様な体験の機会をつくる（サマフェスティバル、樽ばやし） ・白南中学生的な地域課題解決を考える総合学習に協力していく ・地域活動で子どもが活躍できる場をつくり自己肯定感を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み科学工作や星空見学、ママのしゃべり場等子ども子育て支援事業実施 ・茨曾根フェスティバルで親子でフリーマーケットを行い、こどもの自己肯定感を高める取組みを実施した 								
		防災・減災の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と合同開催の防災訓練を実施 ・避難行動要支援者の安否確認訓練を自治会防災マップと緊急連絡網を活用して実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治会の自主防災会自立へ向けた働きかけは計画中 ・自治会安否確認訓練と小学生引き渡し訓練の同時開催、多様な体験ブースを用意して工夫した 								
		情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・コミ協だよりでのアクションプランの活動情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミ協だよりでの地域活動の発信を継続した 								

南区地域福祉アクションプラン 令和6年度地区別計画進捗確認一覧

地区名	令和6年度推進計画				評価							
	スローガン	推進目標	R5年度取組んでの課題と次年度引継ぎ事項	令和6年度の目標と取組み	取組んだ活動事業	取組んでの課題と次年度引継ぎ事項	住民参加	協議の場づくり	関係機関団体との連携協働	つながりひろがり	住民の理解促進	周知PR
庄瀬	声をかけ合う話し合う助け合う沢山の合（愛）がある庄瀬	支え合いのしくみづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●取組んでの課題 <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の連絡体制について。平日のセンター開館時のマニュアルしかなかった。 ・障がい施設と職員の異動等で交流が途絶えてしまった。「わからない」＝「怖い」になってしまう。 ●次年度引継ぎ事項 <ul style="list-style-type: none"> ・なじらね庄瀬の活動範囲として、南区内に限定しているが、通院の付き添いに限り、加茂市や田上町なども対象にすることを検討する。 ・災害時の連絡体制の確立とマニュアル化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援サービスの継続 通院支援については、区外への送迎も検討を継続 本当にニーズのある方に届くサービスの周知を工夫する ・健康寿命延伸の取組み 各自治会1名選出の保健推進員主体で白根総合病院と連携、文化祭などでの健康づくり講演を企画する 	<ul style="list-style-type: none"> ・なじらね庄瀬の活動継続…利用者からの情報提供で新規支援希望者の利用へつながった。 ・地域の茶の間についての周知活動 ・民生委員と自治会長との意見交換会（11月） 	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・なじらね庄瀬では、取り組むことに課題がでてくる。（区外の医療機関同行、同敷地内や近隣に親族がいる世帯への支援、新規支援希望者は増加しているがボランティアが増えない、気になる人がいた時の専門職への相談のタイミング…など）その都度検討しているが、やってみないとわからないことが多い。 【次年度への引き継ぎ事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の茶の間についてコミ協だより等で紹介するなど周知を行う。 ・障がい事業所とのつながりの継続 ・白南中学校を会場とした3地区防災訓練の検討 	A	A	A	A	A	A
		若い世代との交流推進		<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動に参加できる形で次世代の参加を推進 白南中学校の総合学習で中学生の考えた地域活動のアイデアを地域活動に取り入れ、次世代の地域活動への参加のきっかけにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・『大好きにいがた』白南中2年生総合学習の実施（9月～12月） ・農村公園祭（8月） ・PTA発案による『よるのがっこう』の開催（8月） ・庄瀬地区文化祭（10月）…『大好きにいがた』の学習で生徒から発案のあったフリーマーケットを復活開催 							
		防災・減災活動への取組み		<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練 災害時連絡体制は一部の自治会で取り組んでいるが、自治会ごとに差がある。秋の防災では地区内だけでなく行政にも参加を依頼する企画を行う。 ・小学校との連携継続、防災計画を実施 ・要支援者防災計画の推進 災害時避難行動要支援者名簿と地域の実状のすり合わせ、確認を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区総合防災訓練の実施（10月）…庄瀬小学校と合同で実施 ・避難所運営委員会（庄瀬小学校・生活センター）にてマニュアルや連絡体制についての検討を行った。 							
		組織強化		<ul style="list-style-type: none"> ・自治会長と民生委員の意見交換会の継続とさらなる推進 地域で見えづらいひきこもりの課題についてをテーマに勉強会を開催し、地域での情報共有や理解促進に努めていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健推進員の活動…健康講座、お花見ウォーキング（4月）、敬老会の手伝い（9月） ・庄瀬のいいとこみ～つけたっフォトコン、庄瀬ラバンダープロジェクト開催 							
小林	声かけ合い心をつなぐ小林地区	支え合いのしくみづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●取組んでの課題 <ul style="list-style-type: none"> ・地域全体での子どもと大人の交流は次年度の課題 ・一般住民の防災訓練の参加率が低く、意識を高めることが課題 ●次年度引継ぎ事項 <ul style="list-style-type: none"> ・防災士の増員を図る ・一般住民の防災意識の啓発につながる活動事業の工夫を行う ・通院のニーズへの対応など、移動支援の拡充検討 ・お助け隊こばやしへの若い世代の参加を促す、移動支援運転者を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援サービスの登録会員が活躍できるような工夫をする お助け隊通信発行、ボランティア募集チラシ全戸配布、多くの登録会員が活動に参画できるよう、会員交流会を開催する ・「健康ますます元気になります隊」の講座継続、次世代の参加を促す ・住民に身近な自治会組織への啓発継続 ・障がい者の方への理解を広げる取り組みの継続と工夫 現在行っているふれあい昼食会以外にもできることを検討していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・お助け隊こばやし通信の発行 ・お助け隊スタッフ交流会の開催 ・コミ協や自治会長会で支え合いのしくみづくり啓発 ・「健康ますます元気になります隊」のセミナー継続 ・地区社協事業での見守り活動や昼食会の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・お助け隊こばやしの活動が活発になるに従い、活動上の課題（移動支援や除雪に関して）が生まれており、検討協議を継続する必要がある ・防災に関することでは、個別避難計画を立てた自治会もある中、要支援者の避難の送迎などの支援は住民の中でも負担感大きい。継続して認識共有をしていく 【次年度への引き継ぎ】 <ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり事業の継続 ・お助け隊こばやしへの若い世代の参加促進と移動支援運転者の増員、活動で見えた課題の検討協議継続 ・各自治会での要支援者の避難支援など防災の取組みについては、地域内で慎重に検討を重ねていく 	A	A	A	A	A	A
		子どもの健やかな成長を育む		<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育や小学校のボランティアの活動などを継続していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の登下校見守り活動継続 ・各自治会での多世代交流事業継続 ・ひまわりクラブの運営継続 ・各自治会や地域の茶の間での子どもとの交流会開催 ・新たな子育て支援活動への支援（プレママがらす） 							
		防災・減災の取組み		<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練などの事業の継続 小学校の引き渡し訓練と同日開催とし、若い世代にも考えてもらう 自治会によっては要支援者の安否確認訓練ができていたため、良い取り組みを地区内に広げていけるようにはたらきかけていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月防災訓練を小学校の引き渡し訓練と合同開催とし、若い世代の参加があった ・自治会での要支援者の安否確認訓練も同日実施した 							
		情報発信		<ul style="list-style-type: none"> ・コミ協だよりの情報発信の工夫 お助け隊に関する情報発信やアクションプランの情報発信をチラシなどで全戸配布するほか、コミ協だよりの他にも随時活動の情報を発信していく ・自治会長へのアクションプランの説明と啓発の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミ協だよりの発行 ・お助け隊通信の発行 ・地域情報の発信により、お助け隊こばやしの利用が増えるなど、情報発信の効果が見られる 							

南区地域福祉アクションプラン 令和6年度地区別計画進捗確認一覧

地区名	令和6年度推進計画				評価								
	スローガン	推進目標	R5年度取組んでの課題と次年度引継ぎ事項	令和6年度の目標と取組み	取組んだ活動事業	取組んでの課題と次年度引継ぎ事項	住民参加	協議の場づくり	関係機関団体との連携協働	つながりひろがり	住民の理解促進	周知PR	
臼井	「やろってば！」笑顔で仲良く臼井地区	既存組織を大切に育て連携する	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校実施の避難訓練に、地域も一緒に何かできると良い。 ・アクションプランや事業の実施について、役員のみが会議等に参加しているため、事務局にも参加してもらい地区の活動について共有していく必要がある。 ・多世代交流では初めての取り組みとしか案内がなかったため、行事の際は地区内の施設全てに情報提供できるといい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災関係 <ul style="list-style-type: none"> ・9月：小学校と合同で防災訓練の実施 ・小規模多機能うすいやデイサービスうすいと連携について検討していく ・中学生が避難の手助けをできるよう、デイウすいや講師となって車いすの介助方法を伝える授業を予定している ●支え合い関係 <ul style="list-style-type: none"> ・包括支援センターが認知症講座を中学校で開催予定 ・加力-リツ'を行う多世代交流会と合わせての認知症講座をコミ協で継続開催 ●その他 <ul style="list-style-type: none"> ・コミ協事務局の地域の協議の場への参加については、共有できるように会議録などを供覧するほか、会議出席者が事務局と共有の時間を取るなど工夫していく ・人口減少等の地域課題については、子どもや若い世代、女性など多様な方々の意見を取り入れながらできることから取り組んでいけるといい 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と合同での防災訓練の開催（10月） ・敬老会の開催（11月） ・臼井多世代交流の開催（10月） ・狸の婿入り 開催（10月） ・小学校文化祭への協力（10月） 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園や高齢者施設から災害時の避難支援についての相談があった。 ・敬老会の参加について、参加者が楽しいと思うと口コミで広がり、参加者の増加につながる。参加者が楽しいと思える内容の検討が必要。 <p>【次年度への引き継ぎ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の一時避難として民間企業等の協力が得られないか検討する。 	A	A	A	A	A	A	
		既存事業を活発に											
		交流・仲間づくりができる集まる場がある地区											
		送迎を含め誰もが参加できる検討											
事業者も地区の一員・交流積極的に	あいつ運動を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校にてあいつ運動の実施（年2回） ・花いっぱい運動の開催（年2回） ・保育園と一緒に花植え作業 ・草取り清掃事業の実施（6月・9月） ・中学生と一緒に公園の除草作業の実施 ・支えあいのとりくみについて自治会総会で説明（堀掛自治会）、自治会長への説明（上浦自治会、戸石自治会、下八枚自治会、新生町町内会）にて支えあいのとりくみについて声かけ・説明 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支えあいのしくみづくりについて、住民への説明をするためにも自治会長に理解をしてもらう必要がある。 <p>【次年度への引き継ぎ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支えあいのしくみづくりについて、自治会等への説明を行う。 	A	A	A	A	A	A				
ボランティアや地区活動を理解し関心をもちめる地区	ボランティアや地区活動に積極参加												
行事や活動の情報提供・PR													
大郷	なじらね～？と声をかけあう大郷地区	支えあいのしくみづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●取り組んでの課題 <ul style="list-style-type: none"> ・見守りについて。外に出てこない人の状況確認。 ・認知症の理解について。集まる機会に地域包括支援センターに来てもらう。困ったとき相談できるような顔つなぎの機会づくり。 ・障がい者支援について。地域のどこに住んでおられるか等、情報共有が課題 ●新たな課題 <ul style="list-style-type: none"> ・男性の介護参加について。 ・災害時の連絡体制や自治会長等が自分たちの地域を見守る仕組みづくりができるといい ●次年度引継ぎ事項 <ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスについて学ぶ機会や介護者同士の思いを共有できる場づくり ・災害時避難所の物品がどこに何があるのか把握できるように一覧等の作成 ・多世代交流事業の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・R5のまちづくりサポート事業の継続 コンポストで作った肥料を使った畑での野菜作りと地域のカラー屋さんを継続し、多世代の方々が交流する場で地域のことを考える機会をつくる ・地区社協事業の確実な実施と自治会長と民生委員の協力体制で高齢者の見守りを継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食サービス事業…配布時には声かけを行い見守りを実施 ・タオル配布事業…自治会協力実施 ・大鷲夜祭（7月） ・敬老会（9月） 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中でも介護を必要とされる方、家族の介護をしている方は増えているが、介護サービスの利用方法や相談先についてわからない人がいるので周知が必要。 ・地域包括支援センターとのつながりが少ない。これから介護を受けるという人もセンターの職員の顔がわかると安心できる。 ・災害避難所の物品一覧について事務局用のものはできた。自治会等とも共有できるものがあるといい。 <p>【次年度への引き継ぎ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代にも参加してもらうことを目的に、小学校と合同での防災訓練やこども防災教室の開催について検討する。 ・地域事業開催の際に地域包括支援センターにも声かけを行い、地域とのつながりをつくる。 	A	A	A	A	A	A	
		担い手の育成											上記事業を通じた多様な地域の方とのつながりで担い手を育成していく
		災害への取組み											<ul style="list-style-type: none"> ・防災講座の継続 5/25(土)に鷲巻地区と合同開催、能登半島地震被災地の状況や西区の状況を学ぶほか、避難所開設後の地域の役割について学ぶ内容で実施。 ・地区社協としての防災の取組み検討 発災時の声かけ、日頃の見守りについても検討する

南区地域福祉アクションプラン 令和6年度地区別計画進捗確認一覧

地区名	令和6年度推進計画				評価							
	スローガン	推進目標	R5年度取組んでの課題と次年度引継ぎ事項	令和6年度の目標と取組み	取組んだ活動事業	取組んでの課題と次年度引継ぎ事項	住民参加	協議の場づくり	関係機関団体との連携協働	つながりひろがり	住民の理解促進	周知PR
鷺巻	全員集合！鷺巻地区～笑顔の和をひろげよう～	支え合いのしくみづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●取組んでの課題 <ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流会では活動日や地域での農繁期等を考慮すると参加者が固定され、参加人数も限られる ・敬老会の開催有無を自治会ごとの判断にしたため、地区社協の祝い品の対応に苦慮した ●次年度引継ぎ事項 <ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降も世代間交流等地域交流を継続、参加者で喜びを共有、地域の繋がりを深める ・配食サービスの見守り活動や情報交換会を通じて地域の状況を把握して認知症講座開催など、地域活動に取り組んでいく ・災害を想定した実践的な訓練を重ね、自治会や地域全体で連携して取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症について学習会を継続実施 自治会長と民生委員の情報交換会を活用して開催する 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症講座の開催 ・民生委員訪問活動 	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティカフェは若い世代の参加が中心で、高齢者の参加は少なめなためもっと参加してほしい。足の課題や声掛けなど工夫が必要。 ・認知症サポーター養成講座の日が、自主防災会の日程と重なり、参加者が増えなかったため、今後は他の行事と重ならないように調整する。 【次年度への引き継ぎ】 <ul style="list-style-type: none"> ・SNSを活用した若い世代への情報発信 ・「〇〇世代のイベント」ではなく、誰でも参加できるよう、声掛けの工夫、足の課題の検討 ・プロジェクターを利用した映写会の検討 ・地域のイベントと重ならないように確認しながら開催時期を決める 	A	A	A	A	A	A
		交流の機会の創出		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティカフェわしのきを中心とした多世代交流の機会を創出する イベント開催だけでなく、介護に関する座談会なども計画する 	<ul style="list-style-type: none"> ・桜・灯ろう祭りの開催 ・健康スマイルウォーキング ・大鷲夜まつりの開催 ・保育園や地域での世代間交流の実施 ・はたちの会の開催 ・コミュニティカフェの開催 							
		防災・減災の取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の実施と防災講座の開催 5/25（土）、大郷地区と合同で防災講座を開催 防災訓練では昨年度と同様に実践的な訓練を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・大郷、鷺巻地域防災学習の実施 ・自主防災研修、訓練の実施 							
		人材育成・人材確保		<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもりの方々など、地域にいる多様な人材が活躍できる場づくりを検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員と管轄地域の自治会長並びにコミ協役員合同情報交換会の開催 							
		安心・安全な地域づくりの推進			<ul style="list-style-type: none"> ・給食サービス事業の実施 ・安心箱配布事業の実施 							
根岸	楽しく暮らせる住みよい根岸	支え合いのしくみづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●取組んでの課題 <ul style="list-style-type: none"> ・元日の地震から、防災への正しい知識を一般住民へ伝えることが必要と分かった ・コロナ禍で活動が途切れたこともあり、新たに復活させるためには外部の力を借りたり、改めて自治会が声かけをしたりといった工夫が必要であることが分かった ●次年度引継ぎ <ul style="list-style-type: none"> ・一般住民の方々への正しい防災知識の啓発 ・自治会長へのアクションプランの説明会が令和5年度実施できず。次年度は実施する ・2層圏茶の間交流会を根岸の茶の間に参加呼びかけ ・根岸小の認知症の福祉教育を継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協の地域の茶の間への支援継続 ・地区社協の見守り事業継続 ・敬老会お誘い訪問による把握継続 ・地域の茶の間交流会実施検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・茶の間、民生委員見守り訪問の継続 ・敬老会の内容を工夫、夫婦漫才やジャズなど取り入れ参加も多数だった ・高井東自治会ではゴミ出し支援事業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・担い手、人材育成と同時に顔の見える関係をつないでいくための活動が必要。例) 場所を貸してくれるなどの住民にも役員と一緒にのりかえりに声をかけるなど ・他区からの依頼で認知症高齢者行方不明者のチラシを作成した。当地区で同様のことが起こった場合が心配 【次年度への引き継ぎ】 <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援サービスについて他地区の取組みを学ぶ機会を持つと良い ・あやめ祭りやどんど焼きなど、地域の多様な住民が参加できる場を少しずつ工夫を加えながら継続していく ・小学校の福祉教育を継続し、思いやりある住民を育てる 	A	A	A	A	A	A
		防災・減災への取組み		<ul style="list-style-type: none"> ・小学生引き渡し訓練日に防災訓練を同日開催し、正しい防災知識の啓発を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月：小学校と合同で自主防災訓練を開催、消火訓練や煙体験、AED講習、炊き出し訓練を行った。子どもや子どもや保護者世代も多く参加し防災知識が広まった 							
		若い世代の参画・交流できる場の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・「あやめ祭り」の継続と多世代交流の工夫により、若い世代の地域活動への参加を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が楽しめる内容であやめ祭りを継続、ブース運営など役員以外の住民が活躍する機会になった ・4地区合同どんど焼きにも親子連れの参加が多かった 							
		人材育成・人材確保		<ul style="list-style-type: none"> ・根岸小学校福祉教育で障がい者や高齢者の理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・あやめ祭りを通し若い世代が参加、ブース運営やイベント担当などを通し、活動の楽しさに触れる機会を作れた ・小学校の福祉教育を継続、思いやりの心を育てた 							
		安心・安全な地域づくりの推進		<ul style="list-style-type: none"> ・自治会ごとの活動で互いに見守り合う地域づくりを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治会のセーフティスタッフ活動を次世代に継承しながら継続できている ・防犯カメラを小学校保育園周辺に設置、稼働している ・子どもの遊び場近くの危険箇所確認と保護を実施した 							

南区地域福祉アクションプラン 令和6年度地区別計画進捗確認一覧

地区名	令和6年度推進計画				評価							
	スローガン	推進目標	R5年度取組んでの課題と次年度引継ぎ事項	令和6年度の目標と取組み	取組んだ活動事業	取組んでの課題と次年度引継ぎ事項	住民参加	協議の場づくり	関係機関団体との連携協働	つながりひろがり	住民の理解促進	周知PR
大通	今つながよう！大通に安心と思いやりのネットワークを！	地域活動への住民の参画推進	<ul style="list-style-type: none"> ●取組んでの課題 ・コロナ禍で活動を縮小していたため地域活動者が減少、活動が復活しても新たな人材に地域活動に関心をもって参加してもらうことが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な住民が少しずつでも関わられるよう工夫する 地区内の行事や事業について、地区全住民に対し呼びかけ ・子ども食堂等の地域の団体を通じた地域活動への参加推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活センター花植え活動（6月） ・秋祭りへの高校生の参加（10月） 秋祭りはダンスサークルも参加、多くの若い世代が参加した ・小学4年生向け防災学習（11月） ・地域活動のSNSへの発信…青パト活動が新聞に掲載 	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・次世代の地域参加呼びかけは、負担感に配慮し楽しめるようにといった工夫が必要 ・徘徊ネットワークを作成したがその後の検証がされていない。包括支援センターとの情報交換が必要 ・自治会長交代時、福祉活動は丁寧な説明が必要 ・地区内福祉事業所等社会資源との災害時連携についての検討が課題 【次年度への引き継ぎ】 <ul style="list-style-type: none"> ・自治会長交代時、地域の福祉的な活動を丁寧に説明して引き継いでいく機会をつくる ・自治会に加入しない世帯への支援の検討 ・包括支援センターとの認知症に関する情報共有の機会 ・地区内の福祉事業所と災害時連携の検討協議を行う 	A	A	A	A	A	A
		支え合いのしくみづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●次年度への引き継ぎ ①徘徊ネットワークについて、自治会長ファイルの中身の引き継ぎと共に説明、システムの理解促進に努める ②思いやりネットでは活動を継続しながら地域ニーズに合わせた支援メニューの検討を続ける ③役員自らが楽しみ、ボランティアのすそ野を地道に広げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりネットの活動を継続しつつ、移動支援等新たなニーズに対する支援の検討を行う ゴミ出し支援については自治会の協力をよびかけ、ゴミ出し支援事業に取り組み自治会が増えるようはたらきかける 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりネットの活動継続、ゴミ出し支援事業活用の新たなしくみづくり ・各地域の茶の間の活動充実 ・生活支援サービスサミットを大通地区で開催、活動の充実につながった 							
		防災・減災の取組み		<ul style="list-style-type: none"> ・コミ協の防災活動事業の継続 防災訓練や避難所運営会議などを通じた積極的な取組みを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災講座（5月）、防災訓練（10月） ・避難所運営委員会（11月） ・小学4年生向け防災学習（11月） ・避難所開設訓練（10月） ・大通防災士の会として南区居宅連絡会で講話、個別避難計画作成の現状を知る機会になった 							
		つながりのある地域づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協実施事業の継続 ・地域で見えづらい課題（ひきこもりや8050世帯など）について、70歳以上全戸訪問などの事業等を通じて声かけを行いながら把握、支援につなげる努力を続ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂運営委員会による子ども食堂継続で次世代の活動者が参加・活躍し始めている ・地区社協事業の充実（はじめまして赤ちゃん事業等） ・秋祭りやどんど焼きなどの交流事業を継続した 							
		情報発信		<ul style="list-style-type: none"> ・コミ協だよりでの活動情報発信の工夫 ・地域で見えづらい課題（ひきこもりなど）をコミ協だよりで取り上げ、発信していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもりの支援事業についてコミ協だよりで取り上げた。今後も発信していく 							
白根	広げよう地域の輪 凧の舞うまちしるね	支え合いのしくみづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●取組んでの課題 白根お互いさま支援隊について ・「南区お互いさま」と相談者・協力者が重複しているため受付～支援後の事務処理を分けて実施していく必要あり。 ・支援に入っている人が固定化。多くの人に関わってもらえるよう、依頼～コーディネートの流れ確認の必要あり。 ・支援の仕方を検討。必要な場合には他の制度やサービスの促しを行う。 ●次年度への引き継ぎ ・地震時、自治会長や民生委員で心配な方への声かけを行った方がいた。地域住民へ声かけについて周知する機会が必要。 ・次世代の担い手発掘のための仕掛けづくりについて検討。 ・子育て支援について、既存の団体や活動を活用しての取組みについて検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・白根お互いさま支援隊報告の流れをつくり簡素化するほか、多様な会員が活動参加できる工夫を行う ・顔の見える関係づくりの継続 ・配食サービスの継続や地域の茶の間、助け合い活動を継続していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・白根お互いさま支援隊の活動の継続 …活動～報告の流れの明確化 ・敬老会の開催（9月） ・白根地区社協ふれあいここにこ昼食会の開催（10月） 配食サービス事業（3月） 	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・白根お互いさま支援隊では、支援隊の人たちが高齢化しており、次世代のボランティア育成が必要。 ・地域の取り組みや白根お互いさま支援隊の活動など知らない（情報が届いていない）人がいることから、活動の周知が求められる。 ・地域の防災訓練の際、白根第一中学校や白根高校に開催案内を出したが、参加がなかった。防災訓練だけではなく、地域行事等に参加してもらうための検討が必要。 【次年度への引き継ぎ】 <ul style="list-style-type: none"> ・支え合いのしくみづくり、白根お互いさま支援隊の活動周知のため、自治会等と話をする機会について相談や依頼 ・白根お互いさま支援隊のチラシの修正、配布での周知 ・中高生へ地域行事や防災訓練への参加の呼びかけ、相談 	A	A	A	B	B	B
		災害への取組み		<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の際などに町内の協力の必要性や日頃の支え合いの重要性を一般の住民に伝えていく ・白根南部では月1回防災会議を継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織が中心となり、各地区・自治会等で防災訓練などを実施 ・南部：防災講座の開催 ・北部：関係機関を含む白根高校の避難所運営検討会の開催 ・中部：自治会、連合会ごとに防災訓練等の開催 							
		担い手の育成		<ul style="list-style-type: none"> ・お互いさま支援隊の活動員を募集するなど、地域の担い手を募集していく ・白根第一中学校の生徒さんのゴミ出し支援協力の検討を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・白根第一中学校へ白根お互いさま支援隊などのボランティア活動への参加についての相談 							
		白根児童センターと地域とのふれあい		<ul style="list-style-type: none"> ・センターでの多世代交流を推進する 地区社協活動の中で児童センターの活動支援ボランティア団体の活動を応援する 	<ul style="list-style-type: none"> ・白根児童センター運営会議への参加 ・児童センター開催事業の他、自治協事業で開催された夏休みの宿題サポート事業への協力 							

南区地域福祉アクションプラン 令和6年度地区別計画進捗確認一覧

地区名	令和6年度推進計画				評価							
	スローガン	推進目標	R5年度取組んでの課題と次年度引継ぎ事項	令和6年度の目標と取組み	取組んだ活動事業	取組んでの課題と次年度引継ぎ事項	住民参加	協議の場づくり	関係機関団体との連携協働	つながりひろがり	住民の理解促進	周知PR
味方	なしらねかい〜ねいきいきあいささえあい味方地区	支援合いのしくみづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●取組んでの課題 <ul style="list-style-type: none"> ・老人会の入会数が減少、後継者もおらず団体数も9団体から4団体に減った ・民生児童委員の担い手がおらず2名欠員の状況が続いている ●新たな課題 <ul style="list-style-type: none"> ・以前に比べ地域住民の関係性の希薄化が感じられ、子供の数も減少しており地域の子供会も統合していくような動きも ●次年度引継ぎ事項 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度行った地区の様々な活動の中で出てきた課題や必要な取り組みを継続的に関係団体や地域の人と一緒に考えながら行っていく ・今年度から開始された生活支援サービス「みんなのみかた応援隊」も走りながら味方地区に合った内容を検討していく ・茶の間に若い世代も参加を促しコミュニケーションを図れるような取り組みも考えていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援サービス「みんなの味方応援隊」を立上げと実施 ・敬老会の開催を通し、参加しない方への訪問など見守り活動につなげる ・民生委員の見守り活動と連携しながら地域の心配な人を支援につなげていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の茶の間活動を地域で応援、多世代交流などが活発に行われた ・生活支援サービスみんなのみかた応援隊活動で、通院や買い物の支援を開始、より地域の高齢者のニーズに応える活動ができた。民生委員の活動との連携も進んだ 	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブの入会者の減少や後継者不足問題 ・民生委員児童委員の担い手不足による欠員が継続 ・みかた応援隊の活動により、高齢者の生活の課題が見えてきた（買物や通院に苦労する方々など） 【次年度への引き継ぎ】 <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援サービスみかた応援隊の登録ボランティアの増員をはかる ・除雪やゴミ捨てなど、身近な近隣者の助け合いが必要な活動に関しては、自治会との連携やつながりを深めることができる取組みを行えると良い ・担い手不足の課題に対し、小さなステップで地域活動を少しずつバージョンアップして新たな住民が参加しやすいきっかけをつくれると良い 	A	A	A	A	A	A
		地域共生社会の実現		<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもりになる前に、こどものうちから交流できる機会を地域でつくっていく ・民生委員の学校ボランティア協力 ・住民のふれあい交流・活躍の場として「あじかた穀倉祭」「ふるさと納涼祭」開催 ・子どもも楽しめ役割を担う「西白根神楽舞」「あじかた穀倉太鼓」等、伝統芸能の継承を地域。また中学生の行う笹川邸ガーデンの取組みで、子どもたちの活躍の場が継続されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協での敬老会祝い品（米寿）の贈呈、欠席者への見守り訪問の実施 ・民生委員の学校ボランティア協力 ・住民のふれあい交流・活躍の場として「あじかた穀倉祭」「ふるさと納涼祭」開催 ・子どもも楽しめ役割を担う「西白根神楽舞」「あじかた穀倉太鼓」等、伝統芸能の継承を地域。また中学生の行う笹川邸ガーデンの取組みで、子どもたちの活躍の場が継続されている。 							
		地域の中での交流活動の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の茶の間での子ども達との福祉の学びの場の開催 味方一番も組や吉江の茶の間での子どもと高齢者の学び合い活動を継続する 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校パートナーシップ事業で小学生と地域の交流活動を活発に行った ・お〜いよの会で海水浴と対-教室を開催 ・子どもも参加する老人クラブの輪投げ大会を開催した 							
		組織強化		<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の地域活動の課題について検討を継続する場を持ち続ける 例) 支援合いのしくみづくり会議等 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援合いのしくみづくり会議の定期開催により地域活動活性化 ・小中合同防災訓練を実施、地域の多様な参加があった ・子ども対象公民館事業等への地域の送迎を協議、住民みんなのための活動を検討した ・お〜いよの会では「親子」スキー教室を開催、高校生やPTAの参加があり、次世代の地域活動参加のきっかけをつくった 							
		PR活動		<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの味方応援隊の周知やボランティア募集などを通し、活動をPRしていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌による「みんなのみかた応援隊」の周知広報活動に取組んだ ・コミ協だよりや地区社協だよりなどを通じた地域活動の周知啓発により、地域の活動を住民に情報発信した 							
月湯	あいさつ声かけ思いやりなごらふとつ子の里	支援合いのしくみづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●取組んでの課題 <ul style="list-style-type: none"> ・定年延長で60歳を過ぎても働く人が多く役員の担い手不足。 ・人口の減少や核家族化などの背景から地区で活動している団体役員の担い手不足や高齢化により茶の間の解散もある ・イベント参加人数減少、検討必要 ●新たな課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ふくしと健康のついでで地元中学の演奏を行ったが会場への移動が課題 ●次年度引継ぎ事項 <ul style="list-style-type: none"> ・南天の会の新たな配食メニュー検討 ・今年度行った内容の気付きや課題を検討しながら来年度も引き続き継続していく ・災害時に地域で必要なことを担い支援合いの取り組みで具体案検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康トークショーや地域イベント参加促進で健康寿命の延伸を目指す ・環境美化活動や配食サービスでボランティア活動の活発化 ・認知症や障がい者への理解を小中学校の福祉教育などを通して深めていく ・あいさつ、声かけ、見守り活動の継続 ・地域の茶の間の支援継続 ・便利帳を用いた高齢者の見守り継続 ・健康と福祉のついでで幅広い世代へ啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康トークショー、月湯地区敬老会の実施 ・福祉と健康のついで開催 ・地区社協・民生委員協働安心箱配布事業 ・つぎがた便利帳の配布 ・南天の会による給食サービスの実施 ・茶の間で体しゃっきり体操の普及活動 ・支援合いしくみづくり周知ファイル作成 ・支援合いに関するアンケートの実施 ・移動茶の間「ふれあい茶ろん」の開催 ・中学校での認知症サポーター養成講座 	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・定年の延長により60歳を過ぎても働いている人が多く役員のなり手がいない。 ・民生委員と自治会長との情報共有の場があるとよい ・PTAと一緒に地域の活動を取り組んでいきたい 【次年度への引き継ぎ】 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度行った内容の気付きや課題を検討しながら来年度も引き続き継続していく ・災害時に地域で必要なことを担い上げ支援合いの取り組みで具体案を検討していく ・地域既存サービスの継続支援 ・自治会長と民生委員との情報共有の場づくり 	A	A	A	A	A	A
		地域共生社会の実現		<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもりや困っている人を支える ・民生委員と自治会が連携して情報収集 ・緊急キット配布などの各種事業を通し、課題の把握に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・便利帳配付を介して ・民生委員と自治会長で心配な方の情報共有 ・相談機関の周知 ・相談者を必要な関係機関に繋ぐために地区で活動している団体に対して連携の働きかけを行った 							
		地域活動への住民の参画推進		<ul style="list-style-type: none"> ・公民館活動やコミュニティ講演会、茶の間の世代間交流での体験や交流の機会の創出 ・老人会や茶の間参加者、学校保護者へのボランティア参加の呼びかけ ・伝統芸能の伝承をととした地域活動の参加促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化活動の実施 ・月湯地区防災訓練の実施 ・茶の間3カ所での世代間交流の実施 ・世代間交流として月湯中学校生徒とのボッチャ体験の開催 ・北海道月形町との交流・物産販売会の開催 							
		情報発信		<ul style="list-style-type: none"> ・支援合いのしくみづくり通信の発行 ・社協だよりでアクションプランのPR ・SNSや学校HPで地域のことを発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・つぎがた便利帳で地区内のサービスの紹介 ・月コミ通信の発行 ・地区社協だよりの発行 ・住民バスの継続支援のための広報活動 							